

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成27年度第4回定例会 要点記録

日 時 平成27年10月27日（火）午前10時～正午

場 所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・門委員・長谷部委員・橋本委員・萩原委員・戸澤委員・伊藤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・豊泉もとまち公民館長・木場並木公民館長・秋元本多公民館事業係長（欠席1名）

1 連絡事項

（1）配布資料確認

（2）第3回定例会要点記録確認 ⇒一部文言修正のうえ承認

2 報告事項

（1）平成27年第10回国分寺市教育委員会定例会について

事務局：10月22日第10回国分寺市教育委員会の内容について報告。公民館については特になし。

（2）その他

事務局：配布した資料「第3回国分寺市教育7 DAYSのご案内」について説明。3課連携（ふるさと文化財課・公民館課・図書館課）「国分寺市の歴史」スタンプリー。また、夏休み期間に実施した「昆虫標本展示」について報告。11月14日関東甲信越静公民館研究大会の参加者について確認。

3 協議事項

（1）諮問について

①今後のすすめ方について

事務局：資料1「今後のすすめ方について」に基づき内容について説明。

委員長：前回、各館より特徴的な取り組みの事例について発表していただいた。答申に向けた切り口を丁寧にみていくため、正副委員長と事務局で来年2月までの流れを確認した。落ちているところや取り上げていくべきテーマについて考えてほしい。答申の作成は来年になるが、各論に関しては全委員の執筆をお願いしたいと思っている。方向としては、国分寺市に誕生した公民館の50年の歩みから、国分寺市のまちづくりを考えることを第1章にし、歴史を振り返る意味から各論を指摘していただき、各館の特徴を反映させた各論についてはワークショップなどを立ち上げながら深め、最後に国分寺市の公民館のこれからについて発信していきたいと考えている。全国的に公民館のリストラが進んでおり、非常に大規模な社会教育施設の再編成の動きがあるが、住んでいる方の財産である公民館の価値を

様々な視点から明らかにしていきたい。また、記録を作るときにキーワードをとらえていきたいと思っている。

委員：公民館を広い視野でみたとらえ方を、来年以降に委員長に発表していただきたい。

委員長：1970年代に「三多摩テーゼ」という大きな多摩地域での公民館の活動があった。農村部の代表的なものとして「下伊那テーゼ」があるが、最近、その「下伊那テーゼ」の50年をめぐるシンポジウムがもたれたが、内容は「三多摩テーゼ」に対する批判を農村部から発信するというものであった。都市部での新多摩テーゼのようなものを作成していきたく考えている。

委員：人を育てるという観点で公民館は大切な場所である。保育室を通して人との関係性が育てられたと思っている。職員あつての公民館で、貸館施設ではない。保育室活動から、地域の方と関わり、PTA活動につながっている。市民活動団体もパワーがあるが、公民館と関わりを持たないこともある。その違いは何かと考えている。

委員長：いろいろな市民活動団体と連携するという大きな課題がある。どのテーマでも自主団体に目を向けることを意識して検討してほしいので、今のご指摘は大事であると思う。

委員：公募で参加していて感じるのは、公民館自体は良いコンテンツがそろっていて、地域の心の拠り所になっていると思うが、一部の人がたくさん利用していると思う。高齢化しているのは、まちではなく、公民館の利用者だという思いがある。その理由は、30代から40代の方が入りにくい環境、コンテンツであり、既得者の権益になっていると思っている。国分寺市の状況は新しい方も入ってきているので、パワーがあるまちであるが、年代層をどうとらえていくべきか検討する必要があるのではないか。施設の予約制度が面倒など問題を取り除けば、若い方も利用するのではないか。

委員長：厳しいご意見であるかもしれないが、既得権益化しているのではないかという視点から、より開かれた、より若年層が入りやすい新しい公民館の運営の在り方を考えていく必要があると思う。同じ方が何度も利用して利用率が高いという実態がある一面、利用したことはない方からみると疎外感があるという感覚は大事にしていきたい。

委員：公民館のお祭りや日々の活動にしても、公民館を利用して学ぶという目的が主となっている。地域づくりがテーマであるので、公民館の外で活動する人たちの学びの場でもある公民館として捉えるべきである。公民館が地域づくりに貢献するということは、公民館の中に地域づくりを取り込んでいくことではなく、地域づくりで活躍しているグループが、公民館で学び交流していく、蓄積していくことが役割であると思う。

委員：社会福祉協議会でも、地域づくりは課題となっている。「福祉」は、狭い領域から、現在は広い意味でとらえられている。自治会の組織率は4割を切ったと聞いているが、新たなコミュニティづくりが求められている。

社会福祉協議会では、小学校区でコミュニティづくりはできないか検討してきたが、関係機関との調整が図れず継続できていないと聞いている。すべてを取り込もうというものでなく、新しいものを作ろうとしていた。現在は、公民館の地域会議に参加し、つながりを図っている。

委員長：重ね合わせていって、1 + 1 を 3 にできる方法を一緒に考えていく方法だと思うので、12月の発表を楽しみにしている。

委員：保育室を取り上げてほしい。公民館保育室の出身であり4人を預けていた。学ぶという意味をその時に知った。その時の知り合ったひとが現在も役に立ち財産となっている。

委員長：そのような大事な取り組みについて、是非コラムにしてほしい。公民館で若い方の集まりにつながるのかどうか議論になるところである。30代・40代の働いているお母さんをどう考えるか。

委員：第八小学校はコミュニティスクールであり、公民館活動ともつながっている。公民館行事に子どもたちも吹奏学部で参加しており、早いうちに公民館を理解していくことが大事であると思う。

委員長：1月にコミュニティスクールの報告をお願いしたい。図書館など公的機関との連携も広めたいと考えている。

②地域づくりをさらに考える

事務局：資料2「「異世代交流地域会議」のあゆみ」に基づき発表。

委員長：地域会議をベースにして、学校と連携しながら地域協働事業などを長く続けていることがわかりました。

事務局：資料3「「もとまち地域会議」のあゆみ」に基づき発表。

委員長：先ほどの本多と違って、参加メンバーに学生がいて、10年以上継続していることがわかりました。

事務局：資料4「「地域のひろばー並木の会」のあゆみ」に基づき発表。

委員長：並木の場合は、平成22年に検討され、歴史は新しいが、工夫しながら作り出している感じがする。それぞれ3館は、違った取り組みである。なぜ地域会議なのか意見交換したい。

委員：地域会議の集まりは、立ち上げるはできるが継続することが難しいと思う。理由はテーマが同じであることである。また、リーダーや世話人の人選が難しい面がある。この組織が、高齢化すると機能するのか心配である。世代交代と興味あるテーマでいかに継続させるかに問題があると思う。また、発信する手段も工夫する必要があると思う。

委員：どうやって世話人をつなげているかという質問に対して、次の世代へ引き継ぎを考えて運営している。世代交代をいかにつなげていくかが大事だと思っている。

委員：資料4の「タイムスリップ北部地域を知ろう」や「地域再発見ウォーク」は、発展していく方向性として次の段階が必要だと思うが、どのようにされているのか。ファミリー運動会やクリスマス会とか行われているが、公

民館だからこそできる意義みたいなものをどのようにとらえているのか知りたい。

委員長：先ほど、社会福祉協議会のかかわり方について意見がありましたが、何か意見はありますか。

委員：地域会議に社会福祉協議会に参加してもらい、我々の知らない地域のことが発見できた。今年から東京経済大学との接点をもたせていただいた。

委員長：社会福祉協議会は、具体的な目標があり、緩やかなネットワークにつながることで、視野が広がっている。逆に、地域会議がない2館については独自にやっている状況にある。地域会議はどうしてここまで継続しているのか。新しく始めたところでは、どういった苦労があったのか。行っていない2つの公民館では、作る必要がないのか。作ろうとしたけれどうまくいかなかったのか。

委員：光公民館は地域会議を作りたいと考えていると思う。

事務局：地域懇談会として動き出していたと聞いている。

事務局：地域懇談会という名称で、コンセプトを地域のサロンを目指してとし、平成19年に情報共有をイメージして発足し、4回程度実施した。参加したメンバーから、目標とするテーマがないと集まりにくいということで解散した。再開されず、そのままとなっている。

委員長：恋ヶ窪公民館はどうですか。

事務局：地域会議を立ち上げるようなご意見は聞いておらず、立ち上げていない。

委員長：定期的に色々な団体が集まり、情報交換をしながらネットワークを作る。それをどのように活用するか異なっている。本多は明確に異世代交流を行う。もとまちと並木はサロンの要素で行っている。光と恋ヶ窪は、試み自体では、単なる情報交換であれば目的がはっきりしないということで、実施されず、地域会議は5つの公民館で異なっている。自治会や子供会での公民館とつながるメリットは何なのか。どのように考えるべきなのか。意見をお聞きしたい。

委員：先ほどの質問で、「地域再発見ウォーク」のあとに何かあったのかという件ですが、何もありません。しかし、参加して地域を知ることができた。公民館を通して、背中を押す役割があればよかったと思う。

委員長：情報の問題は重要である。国分寺市は「けやきの樹」がある。紙媒体のみなのか。

事務局：ホームページにアップしている。また、ツイッターを行っている。

委員長：参加しようとする意志がないと活用しない。その人が持っているニーズに届くのかは難しい話である。地域会議については、今回で終了するので、地域会議に取り組む意義についてはどのように考えたら良いのか。そして、基本的な課題についてはいくつか出ているので、学校からの関係からみてどうようにお考えか。

委員：第二中学校のPTAから選出されているが、本多の地域会議にも参加して

いる。実は役職で選出されているので、参加している。メリットについて考えているが、今まで考えたことがなかった。楽しいことを求めるのではなく、継続性はないといけないと思う。

委員長：本多公民館で行っている事業が子どもたち全体でどのような意味を持っているのか考えていただきたい。校長先生はいかがですか。

委員：光公民館の地域に第八小学校はある。コミュニティスクールが地域会議に当たるのではないかなと思う。光公民館館長や自治会も参加し、年4回あり、サマースクールや校庭キャンプに向けて実施している。1つの目的があれば、集まるのではないかな。

委員長：学校も地域づくりを行う。自治会や子供会の基礎体力が弱まっている。地域のネットワークだけではつながらないので、1つの目的があれば集まる意味があるのではないかな。

委員：ファミリー運動会をなぜもとまち公民館で行うのか。スタッフだけで100人いる。これは大きなネットワークになる。

事務局：「タイムスリップ」の先についてだが、山車があり、入れっぱなしな現状を知って掃除だけでもしたいと申し入れたが断れた。働きかけを行ったが難しかった。

委員：本多公民館の地域会議は、いろいろな課題があったが、公民館の職員と知り合ったメンバーとのネットワークでつながれば、解決になっていると思う。

委員長：公民館が団体とどうようにつながるか。それがどのような意味があるか考え始めた段階である。地域に住んでいる方は意外にその意味に気が付かない。他の地域からみるとびっくりすることがある。地域会議があることにどのような意味があるのか再度考えてほしい。

4 その他

事務局：次回は11月24日午後2時からになる。恋ヶ窪公民館の地域づくり講座と光公民館の防災講座の発表、自主グループの取り組みや学習との関連については5館で調整し発表する。

委員長：それでは、終了とする。